

自 己 評 価 書

(平成20年度)

平成21年3月

鳴門教育大学附属小学校

目 次

I	学校の現況及び目的	1
II	評価項目ごとの自己評価	3
	1. 教育課程・学習指導	3
	2. 生徒指導	7
	3. 保健管理	10
	4. 安全管理	12
	5. 人権教育	14
	6. 特別支援活動	17
	7. 組織運営	19
	8. 研修（資質向上の取組）	21
	9. 教育目標・学校評価	23
	10. 情報提供	25
	11. 保護者・地域住民等との連携	28
	12. 教育環境整備	30
	13. 教育実習	32
	14. 教育界への貢献	34
III	自己評価根拠資料一覧	36

I 学校の現況及び目的

1 現況

- (1) 学校名 鳴門教育大学附属小学校
- (2) 所在地 徳島市南前川町1丁目1番地
- (3) 学級等の構成
1 学年 3 学級 6 学年 18 学級
- (4) 児童数及び教員数(平成 20 年 5 月 1 日)
児童数 686 人 教員数 25 人(正規教員)

2 目的

(1) 目的・使命

本校の目的は、附属小学校校則第 1 条において「心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育のうち基礎的なものを施するとともに、鳴門教育大学(以下「本学」という。)における児童の教育に関する研究に協力し、かつ、本学の計画に従い学生の教育実習等の実施に当たることを目的とする」と定めており、本校は義務教育を行う任務とともに、教員養成大学の附属小学校として、次のような使命をもった学校である。

- ① 大学と一体となって、教育の理論及び実践に関する科学研究を行う研究学校としての使命
- ② 地域の教育課題の解明、参観者への指導・助言、文部科学省・県教委・地教委等からの要請による教員派遣など、教育界の発展に寄与する使命
- ③ 鳴門教育大学の学部学生及び大学院生の教育実習等を行う使命

(2) 教育目標

本校は、校則第 1 条に示されている小学校教育の目的の達成のため、次のような学校教育目標を掲げている。

- ① 人権を尊重し、真理と正義を愛する平和的な国家及び社会の形成者を育成する。
- ② 個人の価値を尊び、勤労と責任を重んじる心身ともに健全な人間を育成する。
- ③ 自主性と創造性に富み、実践力豊かな人間を育成する。

(3) めざす子ども像

本校は、学校教育目標に基づき、次のように「めざす子ども像」を明確に示している。

- 思いやりある子ども
- たくましく生きる子ども
- よく考える子ども

(4) 平成 20 年度重点目標

鳴門教育大学との連携を密にし、中期目標・中期計画・本年度計画の実現に努めながら、次の 5 点から学校教育目標の具現化を図る。

- ① 人権教育の徹底を図る。
- ② 主体性をはぐくむ子どもの育成をめざす。
- ③ 安心安全な学校づくりに努める。
- ④ 実践力をもった教員を育てる教育実習を行う。
- ⑤ 県下の教員の資質・能力の向上に寄与する。

(5) 評価項目

- ① 教育課程・学習指導
 - ・主体的な学びをつくる授業の状況
 - ・幼小連携、小中連携を見据えた教育課程の実施の状況
- ② 生徒指導
 - ・学校の教職員全体として生徒指導に取り組む体制整備の状況
- ③ 保健管理
 - ・日常の健康観察や疾病予防の取組、健康診断の実施の状況
- ④ 安全管理
 - ・安全点検や教職員・児童の安全対応能力の向上を図るための組織の状況
- ⑤ 人権教育
 - ・教職員・児童・保護者の人権感覚を高める研修、授業、啓発活動等の取組の状況
- ⑥ 特別支援活動
 - ・校内委員会の設置、特別支援教育コーディネーターの指名や校内研修の実施等、学校責任体制の整備の状況
- ⑦ 組織運営
 - ・校務分掌や主任制度等が適切に機能するなど、学校の明確な運営・責任体制の整備の状況

- ⑧ 研修（資質向上の取組）
 - ・校内研修や校外研修の実施及び参加の状況
- ⑨ 教育目標・学校評価
 - ・児童・保護者の意見や要望の把握・対応の状況
- ⑩ 情報提供
 - ・ウェブページの活用など、情報提供手段の工夫の状況
- ⑪ 保護者・地域住民等との連携
 - ・授業や教材の開発などにおける外部人材の活用の状況
- ⑫ 教育環境整備
 - ・教材・教具・図書を整備の状況
- ⑬ 教育実習
 - ・教員の育成を目的とした教育実習の実施の状況
- ⑭ 教育界への貢献
 - ・教育関係諸機関からの要請による教員派遣の状況

II 評価項目ごとの自己評価

評価項目 1 教育課程・学習指導

(1) 観点の分析

観点1-1 主体的な学びをつくる授業ができていますか

【観点到に係る状況】

2月7日(土)に開催した「第55回小学校教育研究会」では「子どもの主体性をいかにはぐくむかIV」と題して研究発表及び公開授業等を行った。県内外から550名の参会者を得、盛会であった。

当日の公開授業の一覧を次に示す。

公開授業Ⅰ						
学年組	授業者	教科等	授業場	単元名	指導助言者名	分科会場
1年1組	森田 範子	生活学習	はぐくみルーム	ふしぎはっけん大さくせんーかぜのまきー	木下 光二 准教授	はぐくみルーム
1年2組	久次米昌敏	生活学習(算数科)	1の2教室	つくって あそぼう	斉藤 昇 教授	6の3教室
1年3組	加藤 由恵	生活学習(図工科)	1の3教室	見て見て きいてね	白石 謙二 指導主事	第1図工室
2年2組	住友 章芳	国語科	2の2教室	おはなしげきじょうを ひらこう	村井万里子 准教授	多目的室
3年2組	月本 直樹	体育科	運動場	みんなが夢中、おもしろゲームをひろげよう	藤田 雅文 准教授	3の2教室
4年1組	吉岡 壮吉	社会科	メディアセンター	徳島県の人々の生活～祖谷地方～	草原 和博 准教授	6の3教室
5年3組	町口美千代	家庭科	家庭科室	気温や季節に合った衣服の着方を考えよう～衣服アドバイザーになって～	鳥井 葉子 教授	家庭科室
6年1組	中村 満紀	英語学習	G学習室	My Dream	兼重 昇 准教授	G学習室
6年2組	錦織 武雄	理科	理科室	エネルギーとのかかわり～電磁石のはたらき～	香西 武 教授	理科室
6年3組	吉崎 容子	体育科(保健)	多目的室	見つけよう 病気のひみつ	山崎 勝之 教授	4の1教室
公開授業Ⅱ						
学年組	授業者	教科等	授業場	単元名	指導助言者名	分科会場
2年1組	森 裕二郎	図画工作科	第1図工室	うつつて うつつて	山木 朝彦 教授	第1図工室
2年3組	藤倉 新	体育科	2の3教室	力いっぱい 体ぜんたい！！	賀川 昌明 教授	2の3教室
3年3組	笹田 葉子	道徳	3の3教室	かがやく自分に～感しゃの気持ちで～	七條 正典 香川大教授	3の3教室
4年2組	上原 美子	理科	理科室	発見！ 金ぞくのひみつ	小澤 大成 准教授	第2図工室
4年3組	小川 雅功 堀田 博美	英語学習	G学習室	Hello friends. This is me.	兼重 昇 准教授	G学習室
5年1組	佐伯 順一	音楽科	家庭科室	1年間の思い出を声で表そう～クラスの思い出音楽作り～	長島 真人 准教授	家庭科室
5年2組	横山 武文	国語科	多目的室	棕鳩十先生の世界	幾田 伸司 准教授	6の1教室
5年3組	林 隆広	算数科	5の3教室	円をさらにくわしく調べよう	服部 勝憲 教授	多目的室
6年3組	坂田 大輔	社会科	6の3教室	考えよう 裁判員制度	草原 和博 准教授	6の3教室
提案授業						
学年組	授業者	教科等	授業場	単元名	指導助言者名	分科会場
3年1組	森下 哲司	理科	体育館	じしゃくパワーのふしぎ	佐藤 勝幸 教授	理科室
6年1組	藤島小百合	国語科	多目的室	つながるいのち～わたしへ～	余郷 裕次 教授	多目的室

また、第55回小学校教育研究会までに、次のような調査および研究会を行った。

- ① 提案授業および合同研究会…5月13日（火）
- ② 各教科領域等による研究推進授業および授業研究会
- ③ 研究の中間発表…7月18日（金）、10月10日（金）、12月19日（金）
- ④ 研究部会…基本的に毎週金曜日に実施
- ⑤ アンケート等の実施

【分析結果と根拠理由】

①②について

①は、大学の先生方に新年度の研究の内容についてご意見をいただくことを目的として行った。また、②の研究推進授業・授業研究会の中でも、研究内容について多数のご意見をいただいた。

③④について

③により、研究の過程で研究の内容や方法を全体で確かめ合うことができた。

④で話し合ったことを職員会議で提案し、全体に共通理解を図ることができた。

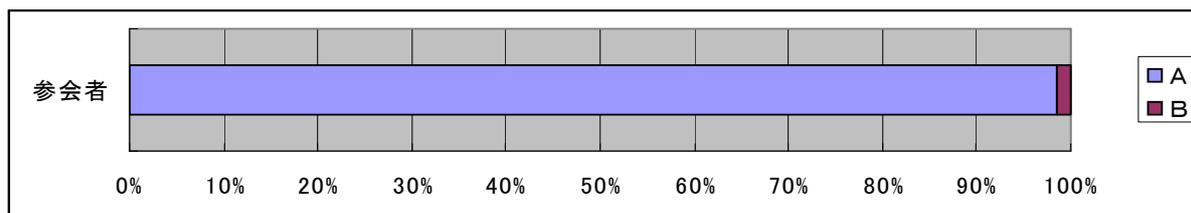
このようなことを行いながら、私たちは日々の授業では子どもの主体性が育つような授業を展開してきた。その結果、子どもの主体性は育ってきていると実感している。

それを裏付けるいくつかのアンケート結果を示す。

〔データ1〕 対象：小学校教育研究会参加者

質問内容：研究主題（主体性）が子どもの姿に表れていると感じたか

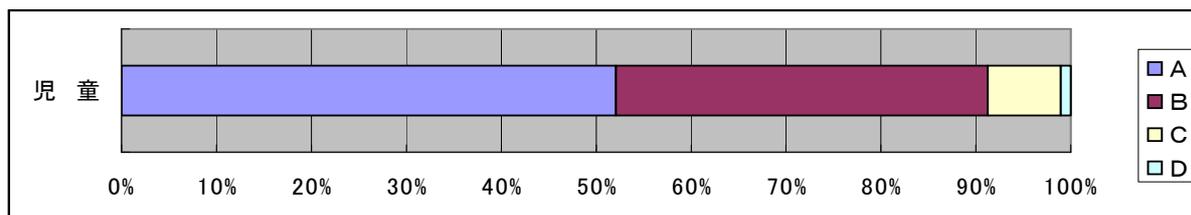
選択肢：Aはい Bいいえ



〔データ2〕 対象：本校全児童

質問内容：学級の仕事や学校の仕事に自分から進んで取り組んでいるか

選択肢：Aよくあてはまる Bだいたいあてはまる Cあまりあてはまらない Dほとんどあてはまらない



〈研究推進授業一覧〉

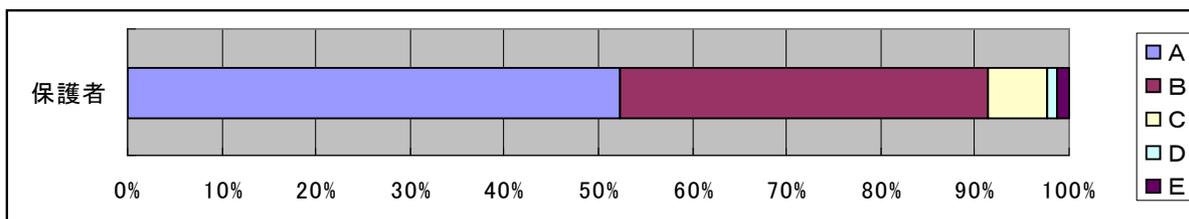
月	日	校時	教科名	授業者
7	1	5	道徳	笹田 葉子
7	10	1	英語学習	小川 雅功
9	24	5	理科	錦織 武雄
10	1	4	家庭科	町口 美千代
10	3	6	社会科	吉岡 壮吉
10	6	5	図画工作科	森 裕二郎
10	9	5	音楽科	佐伯 順一
11	11	5	体育科	月本 直樹
11	14	6	体育科(保健)	吉崎 容子
11	18	2	国語科	横山 武文
11	26	2	算数科	久次米 昌敏
11	27	2	生活学習	森田 範子

資料1 - 1 - ②

〔データ3〕 対 象：本校全保護者

質問内容：学校は、子どもの学習意欲や主体性が高まるように指導しているか

選 択 肢：Aよくあてはまる Bおおむねあてはまる Cあまりあてはまらない Dほとんどあてはまらない Eわからない



観点1-2 幼小連携、小中連携を見据えた教育課程の実施ができていますか

【観点に係る状況】

① 生活学習による幼→小のなめらかな接続

第1学年では教科名を示さずに、単元を構想し授業を展開する過程で教科等の資質・能力を培う「生活学習」を行っている。また、幼稚園と合同保育／授業も展開している。本年度は、次に示す学習を行った。

平成20年度 幼小合同保育/授業

実施日	実施内容	実施学級(小)	実施学級(幼)
5月13日(火)	「さつまいもプロジェクト」 ・幼稚園の畑にいもの苗を植える。 ・植えた後、一緒に遊ぶ。 ・幼稚園なかよし畑	1年1組	山組 川組
5月20日(火)	「ざりがににつりにいこう」 ・徳島中央公園で、一緒にざりがににつりをする。 ・徳島中央公園	1年2組 1年3組	山組 川組
6月25日(水)	「やまぐみのおともだちがっこうたんけん」 ・1年生が学校探検したことをもとに、山組のお友達と一緒に学校探検をする。 ・小学校全体	1年2組	山組
6月26日(木) 7月3日(木)	「かわぐみのおともだちがっこうたんけん」 ・1年生が学校探検したことをもとに、川組のお友達と一緒に学校探検をする。 ・小学校全体	1年1組	川組
7月15日(火)	「みずとあそぼう」 ・プールで一緒に水遊びをする。 ・小学校プール・幼稚園教室	1年1組	川組
	「べたべたべったん」 ・身近な材料や手のひらを使ってスタンプングしたり、ローラーを転がしたりする活動を一緒に行う。 ・幼稚園遊戯室	1年3組	山組
10月27日(月)	「さつまいもプロジェクト」 ・さつまいもの収穫をする。 ・幼稚園なかよし畑	1年1組	山組 川組
12月9日(火)	「やきいもたいかいをしよう」 ・幼稚園のやきいも大会に参加する。 ・幼稚園園庭	1年1組 (2組・3組)	幼稚園全学級
2月24日(火)	「キラキラアイランドで遊ぼう」 ・幼稚園のお友達を招待して、一緒におもちゃで遊ぶ。 (研究発表会授業の発展) ・1年3組教室	1年3組	山組 川組
2月27日(金)	「山川1年表現会」 ・幼稚園5歳児の表現会に参加。 ・体育館	1年全学級	山組 川組 山川保護者
3月5日(木)	「もうすぐ1年生、学校探検」 ・入学前の幼稚園5歳児と1年生で学校探検を行う。 ・グループ学習室・校内全体 ・幼稚園の保護者参観日を兼ねる。	1年1組 1年2組	山組 川組 山川保護者

資料1-2-①

② 教員の交流による小中連携

一方、小中の連携としては、小学校の教員が中学校での授業を担当するスタイルをとっている。具体的には、小学校の第6学年算数科担当者の1人が、中学2年の選択数学の授業を1年間担当した。

【分析結果と根拠理由】

①について

小学校へ入学してきた児童はのびのびと授業に参加しており、不登校など学校への拒絶反応は見られない。第1学年では教科名を示さずに、単元を構想し授業を行っている。子どもの活動を重視してのことであり、就学前の子どもたちの生活の実態に配慮した授業が行われていることが小学校への適応を高めていると考える。また、幼小それぞれの行事に参加したり、小学校の授業に幼稚園児が参加したりする機会も数多く設けていることも幼小の連携を高めることに繋がっている。幼稚園・小学校の教員とも現状に満足している。

②について

週に1回（2時間）の授業ということで、教科内容や指導方法における連携が十分に図られているとは言い難いことは事実である。ただ、小中の情報交換はよりスムーズに行われるようになり、意味ある交流であったと考える。今後、より広い分野での交流、連携が望まれる。

なお、幼小中の連携を考慮した活動が行われているかどうかを教員と保護者を対象に調査したところ、教員では67%、保護者では86%の者が肯定的な評価をしている。このことから、まだまだ課題は残るものの、おおむね良好であると言えるのではないかと。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- 研究の成果が子どもたちの中に表れてきつつある。6年生を対象に行った記述式のアンケートに主体的な記述が数多く見られる。
- 教員自身の自らの授業を見つめる目が育ちつつある。研究授業を行い、自らの授業を分析した結果、通常の授業に生かすこともたくさん見付かった。
- 幼稚園、小学校それぞれのよさが浸透し、お互いの指導に生かすことができている。
- 小中についても連携を行うための準備は整いつつある。

【改善を要する点】

- 小中の指導内容、指導方法について、より連携を深めていく必要がある。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「 A 十分達成されている 」と判断する。

自己評価の基準

- A 十分達成されている
- B 達成されている
- C 取組まれているが、成果が十分でない
- D 取組が不十分である
- * 評価項目ごとの自己評価の基準は、以下同じ

評価項目 2 生徒指導

(1) 観点の分析

観点2-1 学校の教職員全体として生徒指導に取り組む体制の整備ができているか

【観点に係る状況】

平成20年度には、次のような生徒指導年間計画を立案し、次頁に示す生徒指導上必要な活動を実施した。

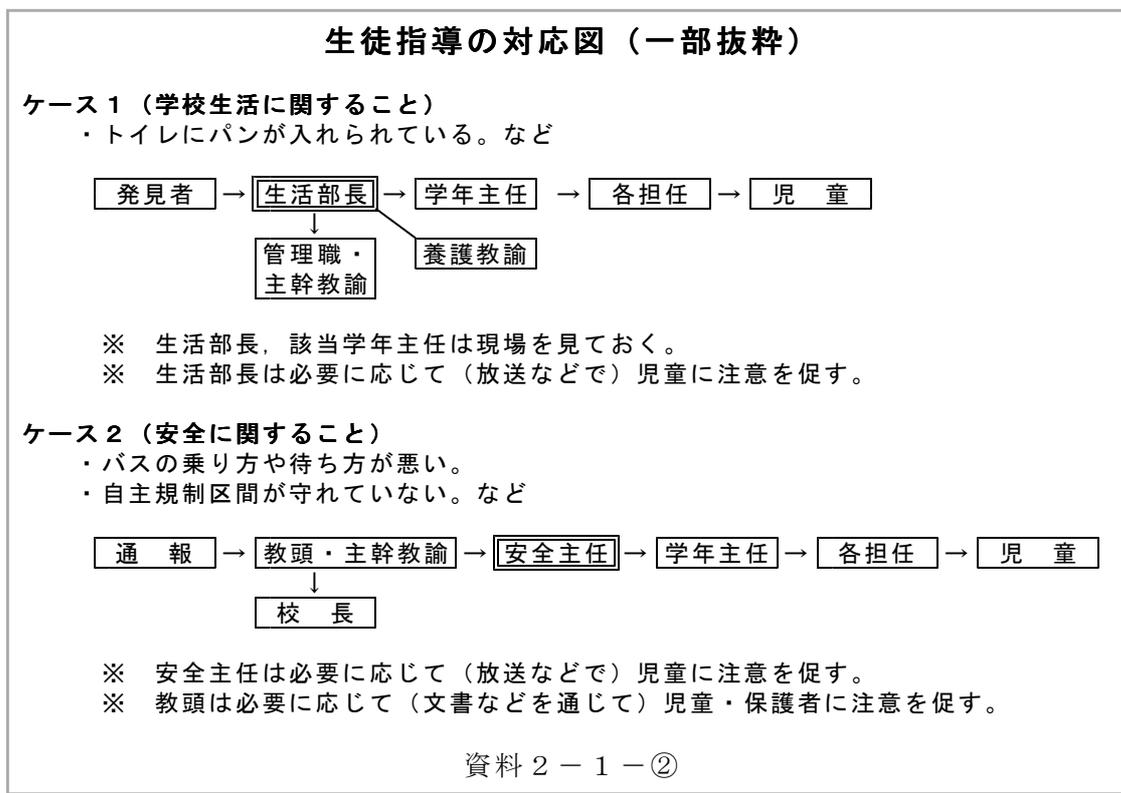
生徒指導年間計画													
1 平成20年度方針													
(1) 子どもどうし、子どもと教師の心の交流を大切にし、自主性と社会性の調和した、人間形成をめざす。(人間学校をめざす) (2) 自他のかけがえのない生命を大切に子どもをはぐくむ。 (3) 全教職員の共通理解、協同指導を大切に体制を確立・充実させ一人で悩まない、抱え込まない、よりオープンな生徒指導をめざす。 (4) 気になる子どもや事例について定期的に拾い出し、全教職員で共通理解を図る場を設ける。													
2 具体的な活動として（生徒指導の3つの機能を生かして）													
(1) 自己決定の場 … 「自分でできる子」 自主・自立 ↘ (2) 自己存在感 … 「伝えよう自分」 自己表現 → 生きる力をはぐくむ。 (3) 人間的ふれあい … 「心をつなごう」 自己理解・他者理解 ↗													
具体的な指導内容例	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%;">自分でできる子</th> <th style="width: 33%;">伝えよう自分</th> <th style="width: 33%;">心をつなごう</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・きまりについて考えよう。 ・整理整頓を心がけよう。 ・掃除をしっかりがんばろう。 ・新しいことに挑戦しよう。 ・当番や係の仕事を工夫しよう。 ・生活や学習のまとめをしよう。 ・健康的な生活を心がけよう。 ・交通安全に気をつけよう。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを伝えよう。 ・自分のよさを感じよう。 ・自分でできることを考えよう。 ・授業中はしっかりと発表しよう。 ・責任を持って仕事をしよう。 ・よいと思うことを進んでしよう。 ・歌や絵で表現しよう。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな声であいさつをしよう。 ・友達の発表を心をこめて聞こう。 ・相手の気持ちを考えよう。 ・友達のよさを見つけよう。 ・協力して活動しよう。 ・お世話になった人たちに感謝しよう。 ・自他の物を大切にしよう。 </td> </tr> </tbody> </table>	自分でできる子	伝えよう自分	心をつなごう	<ul style="list-style-type: none"> ・きまりについて考えよう。 ・整理整頓を心がけよう。 ・掃除をしっかりがんばろう。 ・新しいことに挑戦しよう。 ・当番や係の仕事を工夫しよう。 ・生活や学習のまとめをしよう。 ・健康的な生活を心がけよう。 ・交通安全に気をつけよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを伝えよう。 ・自分のよさを感じよう。 ・自分でできることを考えよう。 ・授業中はしっかりと発表しよう。 ・責任を持って仕事をしよう。 ・よいと思うことを進んでしよう。 ・歌や絵で表現しよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな声であいさつをしよう。 ・友達の発表を心をこめて聞こう。 ・相手の気持ちを考えよう。 ・友達のよさを見つけよう。 ・協力して活動しよう。 ・お世話になった人たちに感謝しよう。 ・自他の物を大切にしよう。 						
自分でできる子	伝えよう自分	心をつなごう											
<ul style="list-style-type: none"> ・きまりについて考えよう。 ・整理整頓を心がけよう。 ・掃除をしっかりがんばろう。 ・新しいことに挑戦しよう。 ・当番や係の仕事を工夫しよう。 ・生活や学習のまとめをしよう。 ・健康的な生活を心がけよう。 ・交通安全に気をつけよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを伝えよう。 ・自分のよさを感じよう。 ・自分でできることを考えよう。 ・授業中はしっかりと発表しよう。 ・責任を持って仕事をしよう。 ・よいと思うことを進んでしよう。 ・歌や絵で表現しよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな声であいさつをしよう。 ・友達の発表を心をこめて聞こう。 ・相手の気持ちを考えよう。 ・友達のよさを見つけよう。 ・協力して活動しよう。 ・お世話になった人たちに感謝しよう。 ・自他の物を大切にしよう。 											
3 校内生徒指導の年間の流れ													
前期	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="width: 15%;">4月</td> <td>・ 前担任より引き継ぎを受ける。(子どもの状況・指導の経緯など)</td> </tr> <tr> <td>5月</td> <td>・ 本年度の活動方針を周知</td> </tr> <tr> <td>6月</td> <td>・ 生徒指導上特に気になる子どもや事例について拾い出し、全教職員で共通理解を図る。</td> </tr> <tr> <td>7月</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当の子どもや学級の子どもの様子をみる。 ・ 個人懇談や教育相談などで保護者からの要望や気になることを聞く。 ・ 生活指導部において、学年をまたがる事例や緊急性のある事例について対応を検討し実施する。また、必要に応じて職員会議で共通理解を図る。 ・ 必要に応じて職員会議で共通理解を図る。 </td> </tr> <tr> <td>夏休み</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭訪問時における保護者との話し合い。 ・ 市生徒指導研究会において他校と情報交換を行う。 </td> </tr> <tr> <td>9月</td> <td>・ 夏休み時における問題行動等を把握し、対応する。</td> </tr> </tbody> </table>	4月	・ 前担任より引き継ぎを受ける。(子どもの状況・指導の経緯など)	5月	・ 本年度の活動方針を周知	6月	・ 生徒指導上特に気になる子どもや事例について拾い出し、全教職員で共通理解を図る。	7月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 該当の子どもや学級の子どもの様子をみる。 ・ 個人懇談や教育相談などで保護者からの要望や気になることを聞く。 ・ 生活指導部において、学年をまたがる事例や緊急性のある事例について対応を検討し実施する。また、必要に応じて職員会議で共通理解を図る。 ・ 必要に応じて職員会議で共通理解を図る。 	夏休み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭訪問時における保護者との話し合い。 ・ 市生徒指導研究会において他校と情報交換を行う。 	9月	・ 夏休み時における問題行動等を把握し、対応する。
4月	・ 前担任より引き継ぎを受ける。(子どもの状況・指導の経緯など)												
5月	・ 本年度の活動方針を周知												
6月	・ 生徒指導上特に気になる子どもや事例について拾い出し、全教職員で共通理解を図る。												
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 該当の子どもや学級の子どもの様子をみる。 ・ 個人懇談や教育相談などで保護者からの要望や気になることを聞く。 ・ 生活指導部において、学年をまたがる事例や緊急性のある事例について対応を検討し実施する。また、必要に応じて職員会議で共通理解を図る。 ・ 必要に応じて職員会議で共通理解を図る。 												
夏休み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭訪問時における保護者との話し合い。 ・ 市生徒指導研究会において他校と情報交換を行う。 												
9月	・ 夏休み時における問題行動等を把握し、対応する。												
後期	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="width: 15%;">10月</td> <td rowspan="5"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒指導上特に気になる子どもや事例について拾い出し、全教職員で共通理解を図る。 ・ 該当の子どもや学級の子どもの様子をみる。 ・ 個人懇談や教育相談などで保護者からの要望や気になることを聞く。 ・ 生活指導部において、学年をまたがる事例や緊急性のある事例について対応を検討し実施する。また、必要に応じて職員会議で共通理解を図る。 ・ 今年度の経過や来年度の方向性について、検討する。 </td> </tr> <tr> <td>11月</td> </tr> <tr> <td>12月</td> </tr> <tr> <td>1月</td> </tr> <tr> <td>2月</td> </tr> <tr> <td>3月</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	10月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒指導上特に気になる子どもや事例について拾い出し、全教職員で共通理解を図る。 ・ 該当の子どもや学級の子どもの様子をみる。 ・ 個人懇談や教育相談などで保護者からの要望や気になることを聞く。 ・ 生活指導部において、学年をまたがる事例や緊急性のある事例について対応を検討し実施する。また、必要に応じて職員会議で共通理解を図る。 ・ 今年度の経過や来年度の方向性について、検討する。 	11月	12月	1月	2月	3月					
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒指導上特に気になる子どもや事例について拾い出し、全教職員で共通理解を図る。 ・ 該当の子どもや学級の子どもの様子をみる。 ・ 個人懇談や教育相談などで保護者からの要望や気になることを聞く。 ・ 生活指導部において、学年をまたがる事例や緊急性のある事例について対応を検討し実施する。また、必要に応じて職員会議で共通理解を図る。 ・ 今年度の経過や来年度の方向性について、検討する。 												
11月													
12月													
1月													
2月													
3月													

* 問題行動や生徒指導上問題のある事例に対しては、その都度対応する。必要に応じて、保護者との教育相談や生活指導部による協議や対応、さらに全教職員の共通理解を図る。

資料2-1-①

- ① 家庭訪問 … 1年生 4月 2～5年生 7月
- ② 個人懇談 … 2～6年生 4月 全学年 7月 全学年 12月
- ③ 特に気になる児童や事例についての共通理解
… 期日：6月10日(火) 11月25日(火)
- ④ 市小中学校生徒指導研修会への参加 … 期日：8月28日(木)
- ⑤ 校外補導 … 期日：8月6日(水) 12月26日(金) 市内駅前付近
- ⑥ 下校指導 … 毎週火曜日 学校周辺
- ⑦ 巡回バス指導 … 月1回程度 学校近辺のバス停から

また、本年度は、問題行動に応じて対応の仕方を整理した「生徒指導対応図」を作成し、共通理解を図った。5つのパターンを想定しているが、その一部を示す。



【分析結果と根拠理由】

①②について

全校児童の家庭状況や生活の根拠地の様子などについて、全ての担任が各家庭を回り確認を行った。訪問時の意見交換の中で保護者の願いや本人の生活の状況などを確認することができた。家庭での生活に問題があると認められた児童に対しては、必要に応じて再度の訪問や個人懇談等を行い、速やかでかつねばり強い対応を行った。

また、定期的に個人懇談を行い、生徒指導上問題になる点については、同様の対応を行った。

③について

生徒指導上特に気になる児童や事例についてピックアップし共通理解に努めた。学級や学年のみではなく全教職員で確認する機会をもつことで、身体的・精神的にケアが必要な児童についての共通理解が図れ、より迅速で正確な対応がとれるようになった。

④⑤について

生徒指導では自校のみならず他校や地域との協力が必要不可欠である。研修への積極的な参加により、生徒指導上児童たちにどのように接することが大切なのかを深く学ぶ機会を得た。また、校外補導という形で、地域を実際に足で歩き見聞することで、そこに潜む危険な箇所や児童の登下校の実態を確認することができた。これからの生徒指導に生かすことができる。

⑥について

安全指導を主たる目的に行っている。毎週担当学年を決め下校指導を行い、その後の職員会議で下校時の状況について説明するようにしている。そこで問題になるようなことがあれば、協議し、その都度対応している。

⑦について

月1回程度担当学年を決め、学校近辺のバス停から児童とともにバスに乗車し、バスの中の態度などについて指導し成果をあげている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- 全教職員の共通理解、協同指導を大切にした体制を確立・充実させたことで一人で悩まない、抱え込まない、よりオープンな生徒指導が可能になった。
- 児童同士や児童と教師の心の交流を大切にし、自主性と社会性の調和した人間形成をめざす、いわゆる「人間学校」としての機能を果たすことができた。

【改善を要する点】

- 日々変化する児童の心身について、常に温かい目を向け続けなければならない。「自己決定の場」「自己存在感」「人間的ふれあい」という生徒指導の3つの機能が生かされているか、不備や不足がないかを常に意識し、必要に応じて改善していく。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「 A 十分達成されている 」と判断する。

評価項目 3 保健管理

(1) 観点の分析

観点3-1 日常の健康観察や疾病予防の取り組み、健康診断が実施できているか

【観点到に係る状況】

① 日常の健康観察の実施

- 朝の会において、担任は、欠席状況や児童一人一人の健康状態、疾病の発生状況を把握する。欠席状況については、欠席カードに記入し、保健室へ提出する。
- 学校生活全体を通して、すべての教職員が継続的に健康観察を行う。
- 健康観察の結果、異常のある児童については、保健室において、養護教諭が観察・指導を行う。

② 疾病予防の取り組み

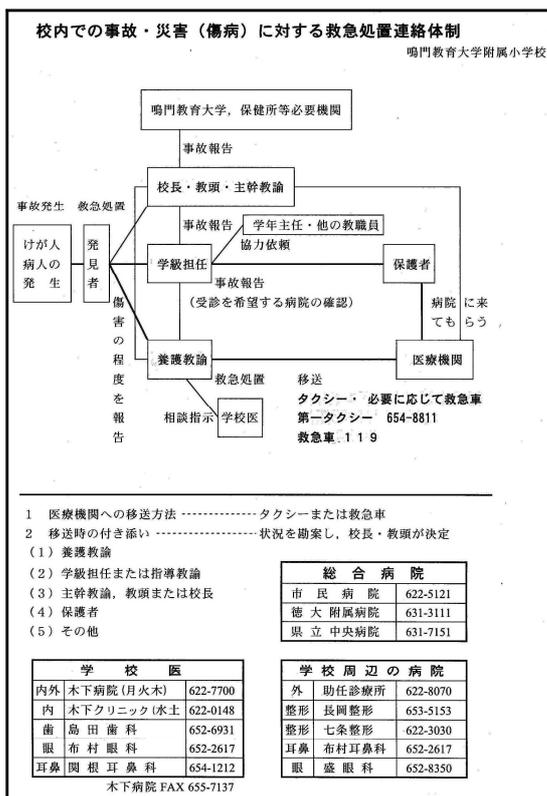
- 担任は、手洗い・うがいの励行、換気、規則正しい生活などの保健指導を行う。
- 養護教諭は、疾病の発生状況を常に把握し、流行の兆しがあれば、職員会議で、予防を呼びかける。伝染病の流行については、学校医・保健所の意見を聞き、学長や学校長の判断のもと出席停止や臨時休業などの措置をとる。
- 学校薬剤師により、定期的な学校環境衛生検査を行う。

③ 健康診断の実施

- 学校医・学校歯科医による定期健康診断や尿・ぎょう虫検査を行う。
- 教職員が役割分担し、前期・後期の発育測定や年4回の視力検査を行う。
- 5・6年生を対象に、学校医による修学旅行前健康診断を行う。

④ 救急処置連絡体制の整備

- 救急に処置を要することが起こった場合、教職員がどのように連絡を取り合い対処すればよいかについて、年度当初の職員会議で共通理解を図っている。



救急処置は、突発的な疾病事故が発生した場所で、直ちに行われなければならない。保健室で発生することはまれで、学校内のあらゆる場所で発生する可能性がある。そこで、教職員一人ひとりが救急処置について技法を習得しておくとともに、全教職員の連携により救急体制をスムーズに機能させなければならない。

また、学校で行う救急処置は、あくまでも医師による医療行為が行われるまでの一時的なものであり、傷病者が現在の状態より悪化しないようにするために行う応急的な処置である。そのため、簡単な外傷の手当以外の処置や投薬などは、原則として行わない。

1 校内で事故・災害(傷病)が発生した場合の対応について

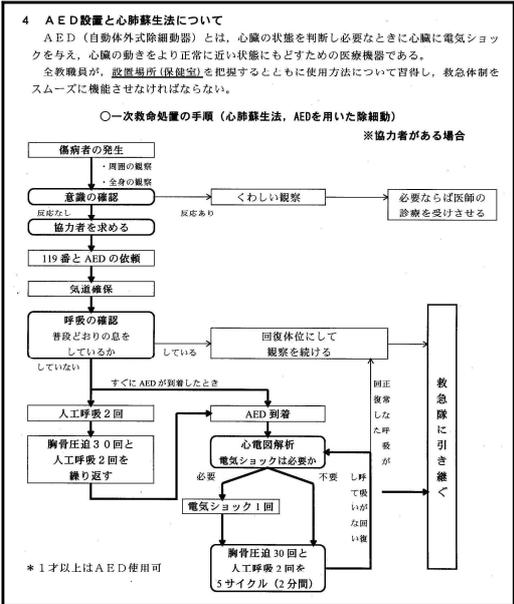
- (1) 事故・災害を発見した学級担任や教職員は、事故発生時の連絡をとるとともに傷病者の状況を迅速に把握する。
- (2) 養護教諭は学級担任や他の教職員と協力して救急処置を行う。
- (3) 学級担任は管理職または主幹教諭に報告するとともに、保護者に連絡をとり、受診する病院を聞き、可能な限り病院に来てもらう。
- (4) 養護教諭は救急処置の後、傷病の程度について管理職または主幹教諭に報告する。緊急性が高い場合には、管理職の承諾を得て救急車を要請する。必要に応じて学校医の指示を受ける。
- (5) 病院への付き添いは、傷病の状況を勘案して、管理職が決定する。治療は付き添い、保護者に引き渡す。保護者の病院への同行がない場合は、学級担任より、治療の状況を詳しく説明する。日本スポーツ振興センターへの申請についても説明する。
- (6) 学級担任は、事故発生状況を正確に把握し、詳しく記録しておく。また、事故の発生に際して、相手がいる場合には、その児童の保護者にもその旨連絡する。(災害報告控えに記入し、養護教諭に提出する。)
- (7) 管理職は、事故に関する問い合わせや取材に対して、窓口を一本化して対応する。また、傷病の状況により、鳴門教育大学の事故報告を行う。
- (8) 全教職員に周知し共通理解をする。事故発生の原因、発生後の措置についての問題点を明らかにし、類似の事故防止と安全指導の徹底を図る。
- (9) 養護教諭不在の場合は、学級担任もしくは指導教諭が、管理職や他の教職員の協力を得て対処する。
- (10) 学校においては、一般医療の対象とならない程度の軽症な傷病で保健室を訪れるものが頻発する。そのため、傷病の状況により、医師の診察を受けずに家庭に帰す場合も多い。その際には次の点に留意する。
 - ・ 病気で早退させる場合は、学級担任が保護者に連絡をとり、速やかに帰宅させる。
 - ・ ある程度軽症なものや家庭から病院へ連れて行ってもらった場合は、学級担任が、学校での事故発生やけがの状況について家庭連絡を行うとともに、その後の経過や治療結果について確認を行い、養護教諭に報告する。

【分析結果と根拠理由】

日常の健康観察により、大きな事故や疾病が起こることなく、児童は、学校生活を円滑に進めることができている。疾病予防については、今年度11月初旬に、1年生の1クラスでインフルエンザの流行がみられたため、学校医・保健所と連携し、すみやかに対応した。そのため、他のクラスへの流行を予防することができた。また、学校環境衛生検査により、問題点を早期発見し改善することで、児童の健康・安全を保持増進することができている。健康診断についても、特別な事情がないかぎりすべての児童を対象に実施し、事後処置が必要な場合には、すみやかにお知らせを配布している。

なお、根拠となる資料は、多岐に渡るため別添とする。

別添資料3-1-②
児童生徒健康診断集計表 他



資料3-1-①

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- 学校医・学校歯科医・学校薬剤師の協力が非常に得られやすい。そのため、突発的な事柄についても、すぐ相談できる体制にある。
- 健康診断や発育測定など、教職員の協力のもと円滑に進めることができるようになってきた。

【改善を要する点】

- 事故や疾病に対する予防の意識に差がみられるため、さらに共通理解を図り、意識を高める必要がある。

(3) 評価項目の達成及び取り組み状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「 A 十分達成されている 」と判断する。

評価項目 4 安全管理

(1) 観点の分析

観点4-1 安全点検や教職員・児童の安全対応能力の向上を図るための組織ができているか

【観点到る状況】

平成20年度附属小学校安全指導計画を作成し、組織づくりを行った。また、計画に基づいて次の安全点検並びに回避・避難訓練を実施した。

- ① 校内安全点検…毎月の学校保健安全の日に実施
- ② 不審者回避訓練…期日；6月4日（水）
- ③ 火災避難訓練…期日；10月7日（火）
- ④ 地震・津波避難訓練…期日；1月8日（木）

安全管理年間計画と保健安全点検計画（次頁）を示す。

平成20年度 安全管理年間計画

月	本校行事	学校安全の日・点検重点項目	実施事項	保護者との連携	地域との連携	施設設備等の安全管理
4	始業式・着任式 入学式 家庭訪問（1学年） 個人懇談（2～6年）	交通安全教室 （1年生） ○正しい通学路と安全な登下校 ○遊具の安全な使い方	・一人一人の通学方法及び通学路の確認 ・交通ルールの遵守 ○校内外の施設及び遊び方の安全点検 （管理責任者） ・校門前でも立哨指導	理事会・保護者会総会 登下校交通安全指導 学級連絡網確認 家庭訪問 個人懇談・学級懇談 美化奉仕活動	交通安全教室の依頼 警察等への挨拶・前川地区緊急連絡網確認	警備会社との連絡 諸施設設備の点検・検査 営繕箇所の修繕 防犯ベルシステム確認
5		バス通学指導 ○侵入不審者の回避訓練 ○交通マナーと公衆道徳の遵守	・校内侵入不審者の回避訓練 （朝会での指導・学級指導・方面別指導） ・道路の通り方 ・車中での過ごし方	登下校交通安全指導	近隣への挨拶と協力 依頼	避難誘導路確認 飲料水検査 拭き取り細菌検査 営繕箇所の修繕
6	プール前健康診断	救急救命講習会 校内不審者侵入回避訓練	○雨天時の交通安全	登下校交通安全指導		プール水質検査 営繕箇所の修繕
7	個人懇談（1、6年） 家庭訪問（2～5年）	あんしん教室 （低学年） ○道路標識と指示の周知 ○被害者の防止	・夏期休業日中の児童の家庭生活における安全 ・道路標識の表示や正しい信号の守り方 ・被害者の防ぎ方	登下校交通安全指導 個人懇談 家庭訪問		プール水質検査 室内空気中の化学物質濃度 検査 消防設備等の点検 営繕箇所の修繕
9	教育実習 運動会	防災訓練（火災） ○秋の交通安全運動への協力 ○交通マナーと公衆道徳の遵守	・交通マナーを守る運動 ・お年寄りの保護誘導の指導 （朝会での指導・学級指導・方面別指導） ○校内外の施設及び遊び方の安全点検 （管理責任者） ○校門前での立哨指導 ◎消火訓練	登下校交通安全指導	近隣への挨拶と協力 依頼	諸施設設備の点検・検査 飲料水検査 一般環境衛生検査 営繕箇所の修繕 防犯ベルシステム確認
10	前期終業式 後期始業式 修学旅行 遠足	○道路横断の危険防止	・自転車の点検整備の励行（点検カード） ・自転車の安全運転の指導 ○校門前での立哨指導	登下校交通安全指導		落下細菌検査 照度検査 営繕箇所の修繕 樹木消毒
11	はぐくみ祭り	○交通マナーと公衆道徳の遵守	・一時停止、左右安全確認の励行 ・車の直前直後の横断禁止 ○校門前での立哨指導	登下校交通安全指導		営繕箇所の修繕
12	個人懇談	○凍結路面の安全な登下校 ○家庭交通安全の推進	・凍結路面の安全指導 ・交通標本の利用と安全指導 ○校門前での立哨指導	登下校交通安全指導 学級懇談・個人懇談		営繕箇所の修繕
1		防災訓練（地震） ○緊急災害時の避難実地訓練 ○教室の換気	・避難訓練 ◎消防署員の指導講話 ○校内外の施設の安全点検（管理責任者） （朝会での指導・学級指導・方面別指導） ○校門前での立哨指導	登下校交通安全指導	近隣への挨拶と協力 依頼と御礼	落下細菌検査 教室空気検査 営繕箇所の修繕
2	送別音楽会 送別風揚げ大会 送別球技大会	○交通事故の恐ろしさの周知	・飛び出しの危険防止 ・自動車の停止距離の認識 ○交通事故の実態調査 ○校門前での立哨指導	登下校交通安全指導 学級懇談	近隣への案内招待	消防用設備等の点検 営繕箇所の修繕
3	卒業式 修了式	○一年間を振り返って（反省）	・保健安全に心がけたか（「校内事故のまとめ」を使って） ○校門前での立哨指導	登下校交通安全指導	通学路の安全確認	営繕箇所の修繕

資料4-1-①

【分析結果と根拠理由】

①について

校内全域を、各箇所ごとに設定されたチェック項目について全職員がグループに分かれ細かく点検を行った。不備のある箇所については、速やかに改善処置をとった。

②～④について

訓練を行う前に教員で訓練の内容を詳細に検討した。訓練実施後は、訓練の内容についてのアンケートをとり、次年度に向けての反省点を明らかにした。児童に対しては事前・事後指導を行い、回避や避難を行う際の行動・態度についての指導を徹底した。

保護者を対象に行ったアンケート「学校は、子どもが安全・安心に、楽しく生活できるような学校づくりに取り組んでいるか」という質問に対して、「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」を合わせ98%の保護者が肯定的にとらえている。これは、かなり高い数字だと言える。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- 複数の目で丁寧に点検を行っているため、児童の安全のための対策が十分に行われており、本年度は重大な事故が起きていない。
- 回避・避難訓練を実施した際には、教職員がそれぞれの役割を適切に果たし、児童は速やかに行動することができていた。このことから、教職員も児童も非常時にどのような行動を取ればよいか、しっかりと認識することができているといえる。また、警察署や消防署といった関係機関との連携を取ることができており、外部から訓練の内容について指導を受けることができた。

【改善を要する点】

- チェック項目に不備や不足がないかを常に意識し、必要に応じて改善していく。
- 避難用器具やさすまた等の道具の使用法については、体験を伴った研修を年間計画に位置付けたい。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「 A 十分達成されている 」と判断する。

平成20年度 保健安全点検計画

- 目的** 児童が安全な学校生活を送れるようにするために、定期的に保健安全点検を実施し、危険箇所の早期発見と、速やかな改善を図る。全教職員が、学校の施設・設備や環境全般の状況を周知する。
- 点検日** 学校保健安全の日（原則として4：30～5：00の間に実施）
- 実施方法** 教職員が各学年の担任を中心とした6グループに分かれ、A～Fに分けた校舎及び敷地の分担箇所を交代で点検し、点検表に結果を記録する。結果については、管理職に報告するとともに全ての教職員に周知し、危険箇所は早期に対応する。
- 各学年のグループ（◎：責任者）**
 - 1年グループ ◎森田，加藤，久次米，吉崎
 - 2年グループ ◎町口，住友，藤倉，佐藤教頭
 - 3年グループ ◎森下，笹田，月本，森
 - 4年グループ ◎小川，吉岡，上原，中村
 - 5年グループ ◎横山，佐伯，林，宮脇
 - 6年グループ ◎藤島，錦織，坂田，安田
- 分担箇所**
 - 東玄関，1・2年棟，通路，1・2年トイレ
 - 3～6年教室・廊下・ベランダ，2・3階トイレ，東階段，中央階段，屋上
 - 体育館（更衣室を含む），通路，多目的教室棟
 - 正面玄関，西校舎・通路，西階段，図書室・はぐくみスペース，職員トイレ，保健室・廊下，特別教室棟
 - 運動場，遊具，サッカーゴール，体育倉庫，プール，南門周辺
 - 正門・駐車場周辺，和の池周辺，飼育舎，はぐくみ広場，自転車置き場，西門周辺，藤棚周辺
- 各月の分担（点検日）**

月日 曜日	4.18 (金)	5.20 (火)	6.20 (金)	7.18 (金)	9.19 (金)	10.20 (月)	11.20 (木)	12.19 (金)	1.20 (火)	2.20 (金)	3.19 (木)
A	1年	6年	5年	4年	3年	2年	1年	6年	5年	4年	3年
B	2年	1年	6年	5年	4年	3年	2年	1年	6年	5年	4年
C	3年	2年	1年	6年	5年	4年	3年	2年	1年	6年	5年
D	4年	3年	2年	1年	6年	5年	4年	3年	2年	1年	6年
E	5年	4年	3年	2年	1年	6年	5年	4年	3年	2年	1年
F	6年	5年	4年	3年	2年	1年	6年	5年	4年	3年	2年

資料4-1-②

別添資料4-1-③

平成20年度 附属小学校安全指導計画

評価項目 5 人権教育

(1) 観点の分析

観点5-1 教職員・児童・保護者の人権感覚を高める研修、授業、啓発活動の取り組みはできているか

【観点に係る状況】

教職員・児童・保護者の人権感覚を高める研修としては、次のようなことを行った。

教職員の研修・・・○人権学習の授業の実施。講師：教育委員会人権課 奥村兆男先生

○人権教育に関する進め方（第3次取りまとめ）研修会。

○上記講義内容をまとめ、各教職員に配布。

○大阪市生野区コリアンボランティア協会主催フィールドワーク研修
・リバティ大阪人権博物館見学（資料5-1-①）

○教育実習時の示範授業において、低・中・高学年での研修会。

○県人権・文部人権・市内ブロック研参加。

○来年度本校ブロック研究会のテーマ検討会。

○本校人権教育に関するアンケートの分析とこれからの取組の検討。

児童の学習・・・○各人権授業での主体的な学習の取り組み。

○特別支援学校との交流。

保護者の研修・・・○人権教育講演「ともに輝いて生きる」講師 塩見志満子先生

後に、アンケートを行い、講演内容及び意見感想を校誌に掲載し、
広く講演内容について報じた。（資料5-1-②）

○オープンスクール時の全学年全学級の人権授業公開。

○本校人権教育に関するアンケートのまとめを校誌により、紹介し、
啓発活動を行う。（資料5-1-③）

第2回小学校人権教育主事研修会資料(一部抜粋)

3 教職員研修の充実

徳島県内では、2005年現在5818人が外国人登録をしているが、1995年からの10年間で、約3.5倍に増加している。県民人口の減少する中、外国人の増加は顕著である。また、出身地域別に見るとアジア地域が最も多く、全体の90%を占め、国籍別では、中国が最も多く、全体の60%を占めている。続いて、フィリピン・韓国・朝鮮の順になっている。民族や文化・価値観などの異なる人々が同じ地域で生活することは、相互理解を深め、国際交流を進める上でたいへん意義がある。このような現状を踏まえて、本年8月19日に、大阪生野区コリアンボランティア協会フィールドワーク並びにリバティ大阪人権博物館での研修を実施し、23名が参加した。

(個別人権課題 外国人)

①ねらい 外国人が多く住む大阪市生野区において、フィールドワークを行うことにより、個別人権課題の一つである外国人差別について学んだり、考えたりする。また、リバティ大阪においては、部落差別をはじめとする人権問題についての学習をし、理解を深める。

②日 程 7:40 学校出発
10:20 生野区コリアン地区到着
10:30 集会場にて講義(内容：在日コリアンの歴史ハングル文字や異文化の交流・共生についての入門的なお話)後 フィールドワーク
12:30 フィールドワーク終了(コリアン地区を散策しながら昼食場所へ)
13:10 食工房にて昼食(韓国料理ブルコギ・チジミ等)
14:30 リバティ大阪へ
14:40 リバティ大阪での見学

③主な講義内容とフィールドワークについて

2007年3月現在、生野区の総人口は13万7千余人、うち外国人が32,724人である。

内訳 韓国/朝鮮 3万4百余人

中国 1,600人

他44カ国の人が住む(東南アジア/アフリカ/北米/南米/豪州/ヨーロッパ)

- ・日本語と韓国語の対応 大和ことばの多くが朝鮮語に由来する。古事記や日本書紀の難解な言葉も朝鮮語からきている。ただ、一部の学者がいまだもって拒否反応を示すものがあり、大学受験から万葉集が激減したとニュースキャスターの久米宏が言っていたということだ。
- ・生野区内には、韓国・朝鮮寺が多い。代表的なのが普賢寺と観音寺。日本に住む同胞の悩みや冠婚葬祭の相談に積極的にかかわる。コリアンタウンにある卍の描かれた建物が多く見かけるが、それらの多くは、加持祈祷を生業とする霊能者の巫女(菩薩・ボサル)の家である。
- ・ハングル文字について基本的には、10の母音と14の子音からなる。5つの濃字音と11の合成母音に加わる。朝鮮王朝4代の世宗王が学者たちに命じて作らせたもの。しかしながら、漢字になじむ多くの学者の反対を受けた。そのため、女性や子どもの文字として使用されてきたが、公布より、500年後の1945年8月15日以降、ようやく国字としての正位置を得た。歯音・舌音・喉音・鼻音・唇音と分類され、世界の中で、最も合理的な文字だと言われている。
- ・フィールドワーク つるのはし跡・平野運河・御幸の森天神・コリアンタウン等
- ・リバティ大阪 展示物権のステージ、特別展として「20世紀の戦争とくらし展」見学

資料5-1-①

【分析結果と根拠理由】

5-1の観点に係る実施状況は、本年度5月より、12月に至るまでのものであり、どの月も、人権教育に関する取り組みを継続して行ってきた。また、教職員・児童・保護者の人権感覚を高める研修の取り組みとして、保護者への人権アンケートをもとに、重要性を問われた課題についての研修会を行ってきた。特に今年度は、障害者・同和問題・外国人の個人権課題を重点的に行ってきた。

また、教員のアンケート調査でも全員が、「子どもの人権を尊重した教育活動や学級経営ができています」と答えており、引き続き研修に取り組んでいきたい。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- 夏の人権学習会には、任意の研修であったにもかかわらず、やむをえない事情（出張等）以外の教職員全ての23名が研修に参加した。また、保護者への研修（教育後援会）も多数の参加で、心に染みる講師先生のお話に耳を傾けた。

【改善を要する点】

- 人権問題解決のための取り組みを具体的にどのようにすればよいか分からないという回答が保護者より多く寄せられた。したがって、保護者にできる取り組みを学校として示していく必要がある。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「 B 達成されている 」と判断する。

評価項目 6 特別支援活動

(1) 観点の分析

観点6-1 校内委員会の設置、特別支援教育コーディネーターの指名や校内研修の実施等、校内責任体制の整備ができていますか

【観点に係る状況】

平成20年度には、次の年間計画に基づき、次頁に示す会議及び研修会を実施した。

特別支援教育 年間計画

1 平成20年度方針

(1) 教職員の特別支援教育並びに軽度発達障害についての認識と、子どもの特性に応じた支援力の向上をめざす。

(2) 校内の支援体制を確立・充実させるとともに、外部の専門機関との連携を推進する。

2 平成20年度計画

(1) について

①特別支援教育・軽度発達障害についての校内研修を実施する。

②具体的な支援策を検討する個別検討会議において、附属特別支援学校支援部や大学障害児教育講座の先生方の協力を得る。

(2) について

①具体的で効果的な支援が実施できるように年間計画を見直す。

②校内の相談・決定・支援体制を確立する。

③特別な手だてが必要な子どもについては、個別的教育支援計画を作成し支援する。

④附属特別支援学校・大学障害児教育講座との連携を更に深める。

⑤必要に応じて、外部専門機関（医療機関・相談機関）との連携を図る。

⑥

3 支援体制と支援のレベル

外部
専門機関

医療機関

相談機関

児童相談所

- 気付きの打合せ（担任・学年団・授業担当者・養護教諭等）
・気になる子についての気付きや支援方法の共有
- 校内委員会（学年団・管理職・養護教諭・コーディネーター）
・チェックリストの実施、リスト作成
・気になる子どもの現状報告と個別検討会議の必要の有無を決定
- 個別検討会議（定期）
（担任・管理職・養護教諭・特別支援学校教員・大学・コー）
・具体的な支援方法について相談
- 個別検討会議（不定期）
（該当担任学年主任・管理職・養護教諭・助言者・コーディネーター
・担任を超えてなんらかの手だてが必要な子どもの個別支援計画の検討作成
- 職員会（教員）
・特別支援教育全体・個別事例の共通理解

●支援のレベル〔担任が配慮しながら対応〕〔校内での支援体制（T Tなど）が必要〕
〔外部支援が必要〕

鳴門教育大学附属
特別支援学校
支援部

鳴門教育大学
大学院障害児教育
専攻特別支援教育
コーディネーター養成コース
井上とも子准教授

			・気になる子どもの様子を観察する。
6月 7月	校内委員会		・チェックリストの実施、リスト作成 ・気になる子どもの現状報告と個別検討会議の必要の有無を決定 ①担任が配慮しながらの指導で対応できる→必要なし ②担任が配慮事項や具体的な支援方法について知りたい→有り ③担任を超えてなんらかの手だてが必要→有り
		個別 検討会議	②特別支援学校教員に、具体的な支援方法を相談する。 ③外部専門機関も含め、該当児童の支援計画を検討作成する ・（大学）スーパーバイザーとして参加
	夏休み		・保護者との相談
	9月 10月		・個別検討会議をうけ、該当児童の支援にあたる。
後期 10月 11月 12月 1月			・個別検討会議をうけ、該当児童の支援にあたる。 ・個人懇談などで保護者からの要望や気になることを聞く。 ・該当児童や学級全体の児童の様子をみる。 ・必要に応じて個別検討会議を開く。
	2月	校内委員会	・7月にあがった子どもの状況・支援の経過等報告 ・次年度に向けての支援の方向性を検討する。
	3月	個別 検討会議	・2月校内委員会において、担任を超えて何らかの手だてが必要な子どもや手だてを急ぐ子どもについての対応を検討・実施する。
職員会		・今年度の経過や来年度の方向性について、共通理解する。	

資料6-1-①

*必要に応じて、保護者との教育相談や、個別検討会議を実施する。
*必要に応じて、特別支援学校や大学に協力・支援を要請する。
*学年用ファイルや該当児童の個別教育支援計画を作成する。

- ①校内委員会 …実施日：6月25日（水）・26日（木）・7月3日（木）
2月25日（水）・3月2日（月）
内 容：学年ごとに、気になる子どもの現状を報告し支援レベルを検討する。
- ②個別検討会議…実施日：5月8日（木）・7月17日（木）
2月20日（金）・2月26日（木）
内 容：支援を要する子どもについて、特別支援学校教員・専門機関相談員等に対応を相談し今後の支援の方向性を検討する。
- ③教育相談…実施日：4月15日（火）
内 容：コーディネーターが保護者と対応等について相談する。
- ④校内研修…実施日：5月22日（木）
内 容：「学びにくさをもつ子どもの理解と支援のあり方」について鳴門教育大学附属特別支援学校 飯田ひとみ教頭よりご講話いただく。

【分析結果と根拠理由】

①②③について

全担任が学級の気になる子どもについてチェックリストを用いてチェックを行い、支援の必要性を考えることで、特別支援活動についての理解が深まるとともに、学校全体で気になる子どもについて共通理解することができた。支援の必要な子どもに関しては、特別支援学校教員や専門機関相談員に対応を相談したり発達検査を行うなど、支援のレベル検討や対応を検討する体制が確立されてきた。また、これらの会議と組織については年度当初に職員会議にて共通理解されている。

④について

校内研修実施も3年目となる。昨年度からは、年度当初の5月に実施することで、誰もが学びやすい学習環境や学びにくさをもっている子どもの対応について、各担任が理解し配慮することができるようになってきた。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- 校内委員会や個別検討会議等、支援のレベルや対応を検討する体制が確立されてきた。
- 特別支援学校や鳴門教育大学、総合教育センター等、外部機関と連携することで、より有効な対応ができるようになってきた。

【改善を要する点】

- 人的時間的側面から校内での支援体制が十分にとれないことで、気になる子どもの対応について、担任の負担が重くなっている点がみられる。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「 A 十分達成されている 」と判断する。

評価項目 7 組織運営

(1) 観点の分析

観点 7-1 校務分掌や主任制等が適切に機能するなど、学校の明確な運営・責任体制の整備ができていますか

【観点到る状況】

本校では、おおきく次の4つの研究部組織を作り、学校運営にあたっている。

- ① 学年教育研究部組織・・・本校での経験や年齢、専門教科等を考慮し、校長・教頭を除く全教員（講師含む）を各学年の担任・副担任に配置する。責任者は学年主任。
- ② 教科等教育研究部組織・・・各人の専門教科を考慮し、校長を除く全教員（講師含む）を各教科等の部員に配置する。責任者は各教科等主任。
- ③ 教育研究部組織・・・この組織は本校独自のものである。次の6部会からなる。
「学習指導」「生活指導」「人権教育」「学習環境」「教育実習」「成果刊行」これらの部会に校長・教頭を除く全教員（講師含まない）を配置する。責任者は各部部长。
- ④ 一般教育研究部組織・・・②③をふまえ、徳島市の一般教育部会に所属する教員を決め、配置する。「特別支援教育」部会などがある。責任者は各一般教育主任。

以上の4研究部組織をもとに、それぞれが担当する校務分掌（教育研究・教育事務）を決めている。また、全体を総括する組織として、企画委員会、校務委員会があり、重要事項は主として企画委員会で話し合い、それぞれの部会におろすようにしている。

企画・校務委員会の規定

1 企画委員会

- (1) 目的
学校経営を円滑にするための連絡・調整をする。
- (2) 構成
校長、教頭、主幹教諭、養護教諭
各教育研究部部长
(学習指導研究部部长、生活指導研究部部长
人権教育研究部部长、学習環境研究部部长
教育実習研究部部长、研究成果刊行部部长)
学年主任

2 校務委員会

- (1) 目的
学校運営を円滑にするための連絡・調整をする。
- (2) 構成
企画委員会のメンバーに次の教科等主任を加える。
(国語、社会、算数、理科、生活、音楽、図工
家庭、体育、道徳、英語)

資料 7-1-①

別添資料 7-1-② 学校要覧
「各教育研究部組織表」 p13
「校務分掌」 pp16-19

【分析結果と根拠理由】

上記のような組織で分担を明確にし、学校運営にあたっている。それぞれが責任をもって担当の業務にあたっており、各組織は適切に機能している。責任者の自覚によるところが大きいとは思いますが、みんな協力的であり労を厭わないことが機能している要因であろう。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- 上記の4研究部組織で責任の所在を明らかにした上で校務分掌を割り振っているため、誰が何を担当すればよいのかということがはっきり分かる。特にその中核を担うのは本校独自の「教育研究部組織」であり、この組織を立ち上げている意味は大きい。なお、組織作りにあたっては、業務量の公平化を図る意味で、各部会において業務が集中する時期なども考慮し、次のような工夫をしている。

「学習指導」「学習環境」の2部会は独立の組織とするが、「生活指導」「人権教育」の2部会と、「教育実習」「成果刊行」の2部会は、それぞれ協力体制がとれる組織とする。

【改善を要する点】

- 本校は、教育研究や教育実習など公立学校にはない使命をいくつかもっている。そのため、業務内容の精選、効率化が大きな課題である。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「 A 十分達成されている 」と判断する。

評価項目 8 研修（資質向上の取組）

(1) 観点の分析

観点8-1 校内研修や校外研修の実施及び参加ができているか

【観点到係る状況】

平成20年度は、教員の研修を次のように行った。

①校内研修

- ㉞ 小学校教育研究会での公開授業 21 授業
- ㉟ 研究部による主題解明のための研究授業及び授業研究会 12 回
- ㊱ 研究部による主題解明のための研究授業及び部内授業研究会 13 回
- ㊲ 転入教員の研究授業及び授業研究会 3 回
- ㊳ 大学教員との合同研究会 2 回
- ㊴ 人権教育の研究授業及び授業研究会 4 回
- ㊵ 人権教育フィールドワーク（大阪市鶴橋コリアンタウン）1回 参加者23名
- ㊶ 本校OB教員による教員支援アドバイス 18 回

②校外の研修会等への参加

- ㉞ 県内の研修会等 のべ301回（長期休業中の参加を含む）
（全市の一般・教科部会や人権、生徒指導の研究会を含む）
- ㉟ 県外研修会等 のべ44回（長期休業中の参加を含む）
- ㊱ 長期研修 25日間の中央研修へ1名
- ㊲ 海外研修 16日派遣の海外研修（フィンランド・スウェーデン）へ1名

【分析結果と根拠理由】

①について

研究部を中心に、「子どもの主体性をはぐくむ」ための授業のあり方について研究を進めている。年間で一人あたり3.3回の授業を公開している。さらに、そのための事前検討会なども数回ずつ行われるなど、授業公開をすることで、教員の資質向上に役立っている。

また、教員の指導技術・授業力の向上のために、本校教員OBによる「学校支援アドバイザー」を招聘し、授業参観と指導講話をいただいた。

このような校内での研究・研修は、教員の授業力向上に十分に寄与し、資質向上が図られたと考える。

人権教育に関しては、全体での研究授業1回、2学年での研究授業3回及びフィールドワークを行った。一人一人の教員の人権感覚を養うための研修として有意義であった。

②について

県内での教育委員会、小教研各部会などが主催する研修会への参加状況は、年間で、一人平均12回を数える。また、県外の研修会へは、一人平均 約1.8回（約2.3日）を数える。さらに、長期研修、海外研修へも教員を派遣した。

このように、本校では、教員の資質向上のための校内研修や校外研修は充実している。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

○ 校内研修について

一人が平均3回以上の研究授業を公開し、授業研究会を行うことで、研究を進めるとともに、一人一人の授業力の向上が図られている。また、本校の教員のOBには、指導力に優れた人材も多く、その利点を生かし、1対1でご指導いただける機会を設けた。このことも授業力向上に役立っている。

○ 校外での研修会について

小教研の各部会の事務局や役員をしている教員が多い関係で、県内の各部会の研修会への参加が多い。この点も優れている点である。

県外の研修会への参加も、一人平均2.8日（長期の中央研修、海外研修はのぞく）を数える。これは、派遣旅費等の支出も必要であるが、本校では、教員の資質向上のために予算を割いて派遣を行っている。この点も優れている点である。また、県外の研修会では、帰校後に研修報告を行い、研修結果を伝達するように努めている。

【改善を要する点】

- 研修及び研究に熱心に取り組む教員が多いが、そのために、時間外や休日にも勤務することもあり、教員の心身の健康への不安も否めない。研修および研究の焦点化や効率化も考えていかなければならない。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「 A 十分達成されている 」と判断する。

評価項目 9 教育目標・学校評価

(1) 観点の分析

観点9-1 児童・保護者の意見や要望の把握・対応ができているか

【観点到係る状況】

普段の生活における児童・保護者の意見や要望の把握は、担任が行うことが基本である。電話、学年（学級）通信、学習計画の活用など、時と場に応じた方法で行っている。

また、月1回行われている参観日、特に授業参観後の学級懇談、学年懇談などで、保護者の意見や要望を把握するようにしている。本年度は、全学年とも年4回（4月、6月、9月、3月）懇談会を実施した。さらに、家庭訪問や個人懇談で担任と1対1で話できる場を年3回（4月、7月、12月）設定している。1人10分程度を目安に、保護者の声に真摯に耳を傾けるようにしている。

なお、対応にあたっては、次のようにしている。

- ① 担任1人で十分対応が可能な事案については、担任が対応する。
- ② 学年で相談しておいた方がよい事案については、学年主任を中心に協議し、対応する。
- ③ 学校として把握しておいた方がよい事案については、職員会議に諮るなどして管理職を交えて協議し、対応する。

その他、学校へ直接届いた意見・要望に対しては、校長の支持を得て教頭が対応している。一方で、保護者・児童による外部アンケートも実施し、意見や要望の把握・対応に努めている。

【分析結果と根拠理由】

児童・保護者の意見や要望の把握、そしてそれに対する対応はしっかりできている。

その理由として、次のことがあげられる。

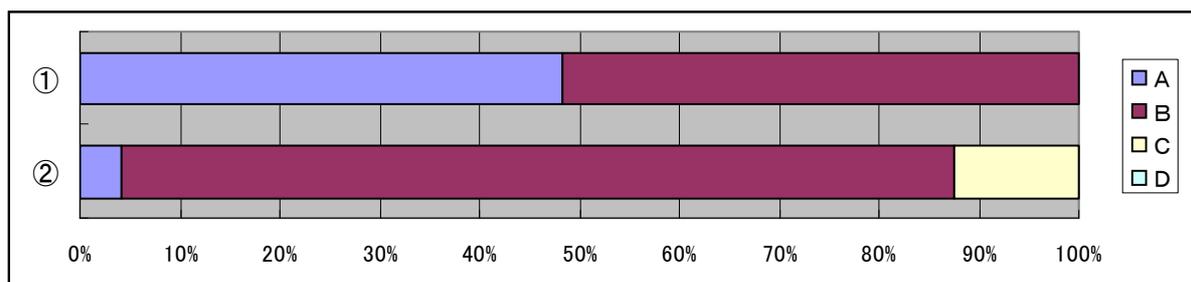
- ① 教員は、上記に示すような機会をとらえ、子どもの思いや願を知ろうと努力している。
また、保護者に対しては、自分の教育観や方針を積極的に発信し、連携を密にしている。
- ② その結果として、学校の対応に満足している保護者がほとんどである。
それを裏付けるいくつかのアンケート結果を示す。

〔データ1〕 対象：本校全教員

質問内容：① 子どもの願いや思いを知ろうと努力しているか

② 保護者に対して、自分の教育観や方針を積極的に発信し、
連携を密にしているか

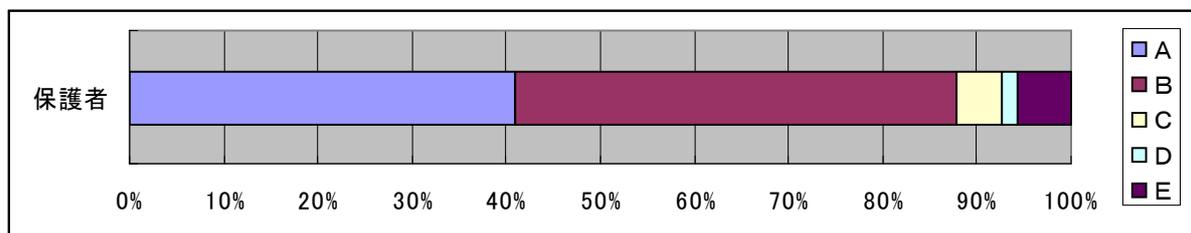
選 択 肢：Aよくあてはまる Bおおむねあてはまる Cあまりあてはまらない Dあてはまらない



〔データ2〕 対 象：本校全保護者

質問内容：学校は、保護者からの相談に、迅速かつ適切に対応しているか

選 択 肢：Aよくあてはまる Bおおむねあてはまる Cあまりあてはまらない Dほとんどあてはまらない Eわからない



(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- 本校教職員は、一人一人の子どもを大切にするという姿勢を常にもっており、その上で指導にあたっているため、適切な対応ができています。また、何か問題が生じたときには、一人で抱え込むことなく、みんなで解決するという雰囲気がある。

なお、児童や保護者も学校に協力的であることも本校の優れた点である。

【改善を要する点】

- 児童・保護者の意見や要望を把握することについては、ほぼ今のままでよいと思うが、対応の仕方については、教職員一人一人の資質をさらに高めていくことが望まれる。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「 A 十分達成されている 」と判断する。

評価項目10 情報提供

(1) 観点の分析

観点10-1 ウェブページの活用など、情報提供手段の工夫ができていますか

【観点到る状況】

平成20年度には、次のような手段を用いて情報を公開・発信した。

- | | |
|------------|----------------------------|
| ① 懇談 | 個人懇談・年3回 学年学級懇談・年5回 実施 |
| ② 学校・学年通信 | 他にも給食だより・保健だより等を定期的に発行 |
| ③ 各種文書 | 行事の案内や不審者情報等折にふれ発行 |
| ④ ウェブページ | 「学年のページ」「今日の給食」「図書室便り」等の更新 |
| ⑤ メーリングリスト | 災害発生時等の緊急連絡方法 |

【分析結果と根拠理由】

①～③について

学級通信や計画帳等従来の実践の充実を図りながら、オープンスクール等の手段と合わせて、保護者、地域社会に対して、日々の教育実践の目標や成果、課題等を積極的に情報提供し、理解と協力を求めた。

④について

ウェブページを利用し、学校で行われていることにコメントを付け、写真とともにすぐに伝えることができた。毎日の平均アクセス数が500件と保護者や地域にとって必要な情報を迅速に発信することができた。



⑤について

保護者の90%が登録している。警報発生時の下校時間の変更を伝えた際には、保護者から「安心した」との感想が多々あった。

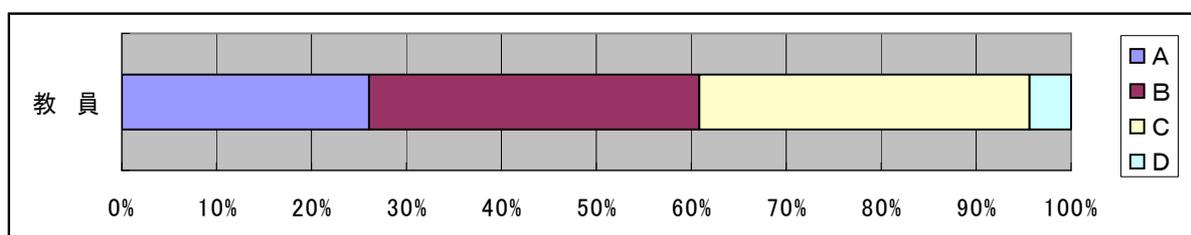
次のデータは、教員と保護者に対して行ったアンケートの結果である。

教員は、ウェブページの更新が思うようにできていないという反省から、厳しく自己評価をしている。しかし、保護者は、92%の方が肯定的に評価しており、情報の提供がきちんとできていることがうかがえる。

〔データ1〕 対象：本校全教員

質問内容：ウェブページの更新等を行い、学校情報の発信ができていますか

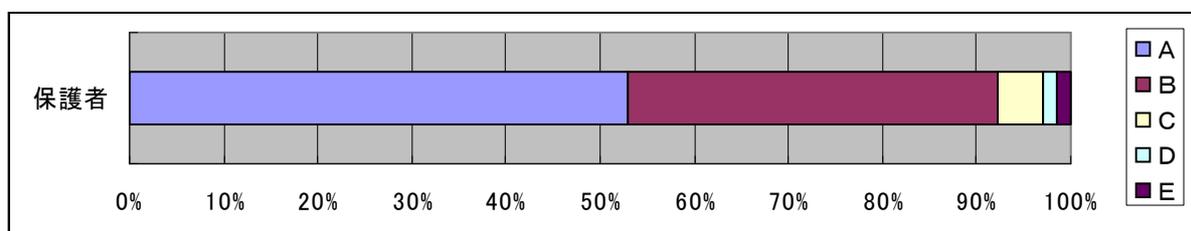
選択肢：Aよくあてはまる Bおおむねあてはまる Cあまりあてはまらない Dあてはまらない



〔データ2〕 対象：本校全保護者

質問内容：学校は、子どもの学校での様子について、よく知らせようとしているか（懇談、学年〈学級〉通信、ウェブページ、計画帳など）

選択肢：Aよくあてはまる Bおおむねあてはまる Cあまりあてはまらない Dほとんどあてはまらない Eわからない



(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- 教育調査で「個人が特定される写真や児童作品を学校ウェブページに掲載について」の可否を調査することで肖像権・著作権に十分配慮しながらも学校ウェブページの更新が素早く行えた。
- メーリングリストは、学級閉鎖の際に、明日の予定や下校時間を伝えたり、雨天の際の運動場での駐車に関してなど緊急連絡としても効果的であった。従来の電話での連絡よりもより迅速に情報を発信することができた。

【改善を要する点】

- 関心をもち続けてもらえるよう、学校ウェブページに学年だより等の保護者や地域のニーズを考慮したものを掲載していく必要がある。

- 学校ウェブページを有効に活用するには、必要で新しい情報を載せるために適切な時期での情報公開と、不要な古い情報の削除等の教職員の共通理解を図る必要がある。
- メーリングリスト未登録の10%の保護者への情報公開の仕方を考える。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「 B 達成されている 」と判断する。

評価項目 1 1 保護者・地域住民等との連携

(1) 観点の分析

観点 1 1-1 授業や教材の開発などにおける外部人材の活用ができていますか

【観点に係る状況】

(保護者の方との連携)

学 年	実施月	内 容 な ど
1	7	防犯教室時に保護者の方の参加を募り，子どもとともに学ぶ機会を設けた。
2	1 2 2	生活学習の料理を作る活動に保護者の方の参加協力を得た。 生活学習の探検活動で保護者の方に参加していただいた。
3	6	社会科の市内探検時に，保護者の方にグループ別に参加していただいた。

(地域住民の方との連携)

学 年	実施月	内 容 な ど
1	5 7	音楽科において外部講師による鍵盤ハーモニカの講習会を行った。 総合警備保障の方を招いての防犯教室を行った。
2	9～10	生活学習において各商店に依頼しインタビュー形式による取材に応じていただいた。
3	5 6 1 1 1 1	音楽科において外部講師によるリコーダー講習を行った。 社会科において文学書道館の方に施設の説明をしていただいた。 総合学習において阿波踊りの連の方よりお話をうかがい，実技指導をしていただいた。 阿波踊り会館の方からお話をうかがった。
4	9 2	社会科において徳島市東部消防署や防災センター，徳島市北部浄化センターを見学，また徳島県下水課や徳島市下水道事業の方に来校していただきお話をうかがった。 総合の時間には，徳島県障害者交流センターの見学や視聴覚障害者支援センターの方のお話をうかがった。
5	5 1 0	総合学習において特別支援学校の先生からお話をうかがった。 修学旅行時に語り部の方からお話をうかがった。
6	6 1 2 1 3	総合学習において徳島市総合計画出前講座でお話をうかがった。 総合学習において江上光治さんによる講演会を行い，お話をうかがった。 租税教室や検察庁出前講座を行った。 総合学習において竹内昌彦さんによる講演会を行い，お話をうかがった。

【分析結果と根拠理由】

授業の中で，必要性がある場合には現地に赴いたり，来校して頂いたりし，教師では指導

できない内容や、より具体的なお話をして頂き、子どもたちの学習効果をあげている。なぜなら、「観点に係る状況」で述べたような内容については、外部講師の方が具体的で分かりやすく、その後の学習において、子どもの学習内容に対する興味関心や理解を深めていると感じられるからである。

また、保護者の方の参加協力があると、子どもの活動が詳しく見取れるという良い点があった。さらに、郊外に出る場合も安全面に留意した活動が行える。

今後も積極的に外部人材を活用していきたい。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- 各施設への見学及びご来校いただいておりますのお話は、現場で従事されている方による実体験に基づいたお話のため、子どもにとって興味関心が湧き、分かりやすいものであった。
- 防犯教室やそれに伴う講習会、阿波踊り会館や連長さんによるお話は、ポイントを押さえたものであり、子どもたちの学習効果は上がったといえる。
- 継続的に特別支援学校の先生方の話を聞くことは、子どもたちの意識の変容に効果的であった。
- 上記にも記したが、保護者の方の参加協力は、活動の見取りや安全面で有効であった。

【改善を要する点】

- 本校は、保護者の方の協力の姿勢が十二分にあることから、さらに授業への参加の機会が増えるよう検討する余地がある。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「 B 達成されている 」と判断する。

評価項目 12 教育環境整備

(1) 観点の分析

観点12-1 教材・教具・図書の整備ができていますか

【観点に係る状況】

平成20年度には、次のような調査を実施し、教材・教具・図書の整備を図った。

- ① 第1回備品, 消耗品購入希望調査の実施 (5月上旬)
検討会議を経て, 購入備品の決定
各担当者による発注
- ② 第2回備品, 消耗品購入希望調査の実施 (10月上旬)
検討会議を経て, 購入備品の決定
各担当者による発注
- ③ 常時, 備品の故障や破損に対して, 修理や補充を行っている。
- ④ 図書購入希望調査の実施 (随時)
児童用図書や教師用研究図書の購入

第1回 新規備品・消耗品 購入希望一覧表 H20.5.28
学習環境課

課別	品名	メーカー	品番	規格	単価	数量	金額	購入可否	備考
教科等	1 洗濯液	学研	12-52375	360ml	945	1	945	○	
算数科合計							945		
算数	1 児童用そらべんセット	ウチダ	12-280-1500 TS-41 L	41本セット	85,575	1	85,575	×	
	2 読のよくなるゲーム アルゴ	学研	Web 157501700	1,500 20	1,500	20	3,000	○	
	3 立体算数図形説明教員	ウチダ	12-284-1500 CM-4	39,000	1	39,000	○		
	4 算数立体構図	ウチダ	12-231-1009 CM-8	17,500	1	17,500	○		
	5 折れ線グラフ指導黒板	ウチダ	12-190-0200 SS-3G	29,000	1	29,000	○		
	6 万冊黒板	ウチダ	12-280-0118 LH-4C	20,000	1	20,000	○		
	7 学習用オポード	ウチダ	12-230-3105 CW-20	16,000	1	16,000	○		
算数科合計							117,520		
社会	1 くまのNEW日本地図バスル				2,940	40	117,520	×	
社会科合計							0		
家庭	1 電子オーブレンジ	東芝	ER-E9		28,800	2	57,600	○	生活科や食研ほぐみで使用
	2 ミキサー	アソナル	MX-A107		14,800	4	72,000	○	〃
家庭科合計							129,600		
音楽	1 アニメーション	ソプラノ	320JA		101,000	1	101,000	○	会費で使用(5-6年)
	2 アニメーション	アルト	321JA		101,000	1	101,000	○	会費で使用(5-6年)
	3 アニメーション	テナー	322JA		101,000	1	101,000	×	会費で使用(5-6年)
	4 アニメーション	バス	323JA		101,000	1	101,000	×	会費で使用(5-6年)
	5 トロノーム		2-300-4000		4,300	5	21,500	○	会費で使用(5-6年)
音楽科合計							223,500		
体育	1 緑白線旗新発着セット	教文	37-1129	40×100cm	9,135	10	91,350	○	危険なので必ずほしい
	2 エコカーbonsリブレマツ	ppc	usc1114	90×180 5cm	28,350	5	141,750	○	
	3 ライン引き	ウチダ	12-300-6502-4W	4W(縦線)カルシウム用	28,900	3	86,700	○	
	4 4色マーカー	hor	usc12111	80×20×18cm 6冊 6x4	24,150	2	48,300	○	
体育科合計							368,900		

第2回 新規備品・消耗品 購入希望一覧表 H20.11.11
学習環境課

課別	品名	メーカー	品番	規格	単価	数量	金額	購入可否	備考
教科等	1 マーダーゲームボード		R-R06-11299		1,265	10	12,650	○	
	2 読のよくなるゲーム アルゴ		1,500 20		1,500	20	3,000	○	
	3 習字練習用紙 漢字版				9,500	1	9,500	○	
算数科合計							27,350		
社会	1 小学校歴史年表	学研	12-R0674	漢検	2,100	3	6,300	○	図書添付
	2 小学校歴史年表	学研	13-R0862	パネル	19,425	1	19,425	○	授業で活用
	3 現代新国語年表	学研	13-R0385	常備(10枚組)	10,500	1	10,500	○	図書添付
	4 現代新国語年表	学研	13-R1011	常備(3枚組)	5,250	2	10,500	○	図書添付
	5 現代新国語年表	学研	13-R0998		8,400	3	25,200	○	授業で活用
社会科合計							71,925		
家庭	1 ミシン		8-271-1019		35,000	20	700,000	×	別会計で
	2 ベーローナデジタルロックシ	シュキ	BLU-437DF5		48,000	2	96,000	×	別会計で
	3 3友紙いびて		3-431-1106		8,600	2	17,200	○	
	4 ホール(替3種組)		2-333-5109		3,490	9	30,600	○	
	5 アイロン		8-270-7005		9,680	2	19,360	○	
	6 アイロン台		2-332-4905		1,300	4	5,200	○	
	7 炊事用小物穴じゃくし		K-3407		490	9	4,410	○	
家庭科合計							77,770		
音楽	1 CD-R				100	100	10,000	○	
	2 DVD-R				100	100	10,000	○	
	3 テレビの配線						20,000	×	別会計で
音楽科合計							20,000		
体育	1 ハンドボール	モルテン	小学生用1号		1,500	20	30,000	○	
	2 体操用本肢TL25	hor	usc12111		5,250	2	10,500	○	
	3 体操用本肢スティック	hor	usc12111		830	2	1,660	○	
	4 体操用本肢スティック	hor	usc12111		1,265	5	6,325	○	
	5 ストップシート				7,245	5	36,225	○	
	6 巻きバスター100				13,650	1	13,650	○	
体育科合計							100,360		
英語	1 水性マーカー8色セット	ゼブラ			1,000	10	10,000	△	10個のみ可 研究発表会用
	2 マグネットシート				500	10	5,000	○	
	3 シェアードワードマップ	ウチダ	12-360-4104		60,900	1	60,900	△	1個のみ可
	4 シェアードワードマップ	ウチダ	12-360-4106		60,900	3	182,700	×	
	5 グループボード	ウチダ	12-360-1027		45,150	10	451,500	×	
	6 巻きバスター100	ウチダ	12-360-4040		8,000	2	16,000	○	図書添付
	7 巻きバスター100	ウチダ	12-360-4041		8,000	2	16,000	○	図書添付
英語科合計							107,900		
図工	1 画工用筆削器への蛍光灯の設置							■	調査後決定
	2 タイムタイマー				7,000	2	14,000	△	2個のみ可
図工科合計							14,000		
理科	1 電線ケーブル	ケニス	11-114-285		5,000	5	25,000	○	
	2 遮光用の黒リド線	ケニス	11-123-605赤		3,800	5	19,000	○	
	3 遮光用の黒リド線	ケニス	11-123-606黒		3,800	5	19,000	○	
	4 フォトカメラ	ケニス	11-108-380		39,000	1	39,000	△	
	5 色付差表(41セット)	ケニス	11-133-041		26,500	1	26,500	○	1個のみ可
	6 カスター	ケニス	11-137-110		3,800	2	7,600	×	
	7 葉巻紙	ケニス	11-125-101		1,300	2	2,600	○	
	8 葉巻紙	ケニス	11-125-101		890	4	3,560	○	
	9 サーマー	ケニス	11-114-220		4,800	2	9,600	○	
	10 ヒートシールド(厚)	ケニス	11-136-123 M		370	20	7,400	○	
	11 ヒートシールド(厚)	ケニス	11-136-122 L		370	20	7,400	○	
	12 液晶電卓学習セット	ケニス	11-120-360 DG-1		29,000	1	29,000	×	
	13 小袋方眼紙	ケニス	11-119-103	112種組	6,300	4	25,200	○	
理科科合計							176,460		
学年	1年	1 マイク内蔵ラジカセ	ビクター	RC-QS14	13,280	3	39,840	○	
1年合計							39,840		
3年	1 黒板クリーナーの中のウチダ	KS	KS-800		735	1	735	○	
	2 黒板クリーナーの中のウチダ	KS	KS-800		735	1	735	○	
3年合計							1,470		
2年	1 計算・図形用方眼ノート	ウチダ	12-230-0011		16,000	1	16,000	○	
2年合計							16,000		
総合計							652,243		

【分析結果と根拠理由】

①②について

各教科や学年，校務分掌等の担当者から備品，図書の希望が数多く寄せられた。検討会議では，担当者から希望理由を聞いたり，カタログ等の資料を集めたりして，教育課程実施上不可欠な備品を最優先に，購入備品の決定を行った。購入した備品については，有効に活用されている。

③について

備品等の故障や破損については，敏速な対応ができています。

④について

購入希望調査を行い，図書担当者と管理職で検討の上，随時図書を購入した。

2月末時点で，児童用図書及び教師用研究図書を800冊ほど購入した。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- 購入希望を広く調査し，検討会議にかけることで，偏ることなく，学校教育を進める上で必要な物を優先的に整備することができている。
- 故障や破損については，敏速な対応ができていたため，スムーズな教育課程の実施が可能となっている。

【改善を要する点】

- 新しく整備された備品について全職員に説明したり，必要であれば利用のためのミニ講習会などを開くなどして，だれもが使えるような環境をつくれば，さらに有効活用ができるだろう。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し，4段階評価中の「 A 十分達成されている 」と判断する。

評価項目 13 教育実習

(1) 観点の分析

観点13-1 教員の育成を目的とした教育実習ができていますか

【観点到に係る状況】

平成20年度には、次の教員の育成を目的とした教育実習を実施した。

- ① 附属校園実習…期日；9月2日（火）～28日（日） 人数；62名（含 大学院生）
ただし、1名については最終日を病欠のため、アンケートは未回答。
- ② 副免実習……期日；10月27日（月）～11月7日（金） 人数；37名

【分析結果と根拠理由】

①について

教育実習生のアンケートを実施した結果、質問「実習の成果についてどう思いますか」（四者択一）の答えとして、十分な成果を得たと答えた者30名【約49.2%】、まずまずの成果を得たと答えた者28名【約45.9%】、あまり成果としてあげることがないと答えた者1名【約1.6%】、その他（今はまだ分かりません。1名、もっとできることがあったと思う。1名）2名【約3.3%】となっている。

②について

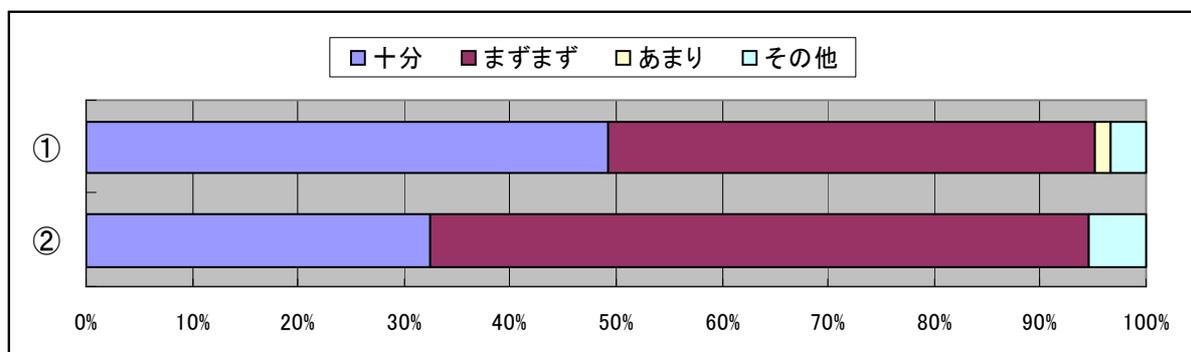
教育実習生のアンケートを実施した結果、質問「実習の成果についてどう思いますか」（四者択一）の答えとして、十分な成果を得たと答えた者12名【約32.4%】、まずまずの成果を得たと答えた者23名【約62.1%】、あまり成果としてあげることがないと答えた者0名【0%】、その他（成果が出たかどうかはまだわかりません。次の場面で生かすことができた、などというように、後にわかると思うから。1名、実力不足だった。1名）2名【約5.4%】となっている。

①、②ともにほとんどの実習生が「成果があった」と答えている。このことから見ても、本年度の教育実習が充実したものであり、十分な成果が挙げられたと考えられる。

〔データ1〕 対象：実習生（①主免 ②副免）

質問内容：実習の成果についてどう思うか

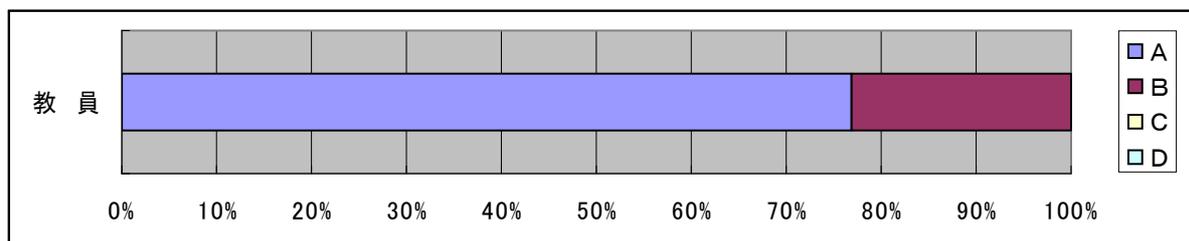
選 択 肢：十分な成果を得た まずまずの成果を得た あまり成果としてあげることがない その他



[データ2] 対象：本校全教員

質問内容：実習生の成長を願い、真剣な指導を心がけているか

選択肢：Aよくあてはまる Bおおむねあてはまる Cあまりあてはまらない Dあてはまらない



(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- 教育実習録がたいへん充実してきた。ここには、実習生一人一人の「学び」が表れており、教育実習の充実を物語るものである。
- 実習を重ねるにつれて、授業への考え方やその展開の仕方、生活を含めた指導の仕方が身に付いてきた。本校教員の、細やかな指導によるものであると考えられる。

【改善を要する点】

- 大学、中学校との連携をよりよいものにする。特に、中学校とは、指導案の形式などで相違点があるために共通理解が必要である。
- 実習生の使命感、倫理観、主体性の確立などが課題として残っている。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「 A 十分達成されている 」と判断する。

評価項目 14 教育界への貢献

(1) 観点の分析

観点14-1 教育関係諸機関からの要請による教員派遣ができていますか

【観点到る状況】

教育関係諸機関からの要請による教員派遣の状況は次の通りである。

①指導助言者及び文科省協力者としての派遣

㊦全国・他県への派遣

のべ10回

㊧県内（県レベル）への派遣

のべ12回

㊨県内（郡市レベル）への派遣

のべ15回

㊩校内研修への派遣

のべ25回

②事務局及び役員としての派遣

のべ208回 一人平均約8.3回

研究会等派遣状況

	研究会名・会場・(派遣教員)・期日など		
県外 (他県・全国レベル)	○南あわじ市道徳研究会・榎列小(大宮) 8/5 ○心のノート改善協力者会議・文科省(大宮) 8/15, 8/16, 8/29, 8/30, 9/13, 9/14 9/15, 12/21 ○道徳教育実践研究事業・さぬき市造田小(大宮) 12/5		
県内 (県レベル)	○10年次研修・附属小(横山) 7/25, 7/28, 8/1 ○図画工作・美術実技講座・総合教育センター(加藤・森) 8/6 ○芸術教育実技講座・総合教育センター(森) 8/18 ○算数夏期研修会・附属小(林) 8/19 ○徳島県小学校体育科教育研究大会・北島小(吉崎・月本) 10/16 ○徳島県小教研算数部会研究大会・富岡小(久次米) 10/22 ○小教研社会科部会主題研究および研究部授業研究会・松茂小(坂田) 10/30 ○徳島県家庭科教育研究大会・伊沢小(町口) 11/20		
県内 (郡市レベル)	○徳島市小教研算数部会・富田小(林) 4/15 ○美馬郡小教研道徳部会・太田小(笹田) 5/8 ○小松島市小教研算数部会・千代小(佐藤) 6/5 ○那賀郡小教研体育部会・平谷小(安田) 6/11 ○鳴門市小教研道徳部会・林崎小(笹田) 6/12 ○板野郡小教研国語部会・松島小(藤島) 9/19 ○小松島市小教研道徳部会・千代小(笹田) 6/26 ○県南国語研究会・上勝小(横山) 7/19 ○美馬郡小教研音楽部会(佐伯) 7/23 ○三好郡市小教研社会科部会・三好教育センター(坂田) 8/8 ○算数教育実践研究会・貞光小(佐藤・林) 8/18 ○海部郡家庭科教育研究会・牟岐小(町口) 10/16 ○鳴門市小教研算数部会研修会・板東小(佐藤) 10/30 ○美馬市道徳教育研究大会・脇町小(笹田) 11/6		
県内 (学校レベル)	○国府小(坂田) 5/15 ○新開小(横山) 5/29 ○上勝小(横山) 6/19 ○八万小(安田) 6/26 ○伊沢小(町口) 7/2 ○助任小(佐藤) 7/8 ○伊沢小(町口) 10/8 ○国府小(坂田) 11/10	○浦庄小(森下) 5/15 ○浦庄小(森下) 6/5 ○浦庄小(森下) 6/19 ○新開小(藤島) 6/30 ○浦庄小(錦織) 7/3 ○論田小(佐藤) 7/10 ○横瀬小(町口) 10/30 ○木頭小(横山) 11/13	○津田小(坂田) 5/22 ○浦庄小(森下) 6/13 ○新開小(横山) 6/26 ○富岡小(久次米) 7/3 ○撫養小(佐伯) 7/3 ○新開小(横山・藤島) 8/26 ○伊沢小(町口) 11/7 ○北島南小(佐伯) 11/20

資料 14-1-①

【分析結果と根拠理由】

①指導助言及び文科省協力者としての派遣

全国・他県への派遣は、本年度は校長のみであった。

県レベルの研究会への派遣は、それぞれの教科で例年並みの要請があった。

各郡市レベルの研究会へは、昨年より少し減っているが本年度は統一大会の裏年でもあり、減少の要因であろう。

校内研修への指導者の派遣は、例年並みであった。

②事務局及び役員としての派遣

各教科とも、事務局員や部会役員を本校から出している関係上、様々な会合へ教員を派遣している。このことは、本県教育発展のために貢献しているといえよう。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

本県の各教科部会での研究・研修活動をリードする教員を多数抱える本校は、各研究会での指導助言や研修会の運営等で本県教育界へ多大な貢献をしている。

【改善を要する点】

研究会の指導助言等に派遣を要請される教員に若干偏りがあるので、調整が必要となってくる。また、数多く要請される教員にとっては、負担もある。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「 A 十分達成されている 」と判断する。

Ⅲ 自己評価根拠資料一覧

	観点番号	資料番号	添付	別添	資 料 名
1	1-1	1-1-①	○		公開授業一覧
2	1-1	1-1-②	○		研究推進授業一覧
3	1-1	1-2-①	○		平成20年度幼小合同保育／授業
4	2-1	2-1-①	○		生徒指導年間計画
5	2-1	2-1-②	○		生徒指導の対応図（一部抜粋）
6	3-1	3-1-①	○		校内での事故・災害（傷病）に対する救急処置連絡体制
7	3-1	3-1-②		○	児童生徒健康診断集計表 他
8	4-1	4-1-①	○		平成20年度安全管理年間計画
9	4-1	4-1-②	○		平成20年度保健安全点検計画
10	4-1	4-1-②		○	平成20年度附属小学校安全指導計画
11	5-1	5-1-①	○		第2回小学校人権主事研修会資料（一部抜粋）
12	5-1	5-1-②	○	(○)	人権について考える機会を（はぐくみ誌第1号）
13	5-1	5-1-③	○	(○)	「人権教育に関するアンケート」からみえてきたこと （はぐくみ誌第2号）
14	6-1	6-1-①	○		特別支援教育年間計画
15	7-1	7-1-①	○		企画・校務委員会の規定
16	7-1	7-1-②		○	学校要覧（p13 各教育研究部組織表 pp16-19 校務分掌）
17	12-1	12-1-①	○		第1・2回備品消耗品購入一覧表
18	14-1	14-1-①	○		研究会等派遣状況

【参考資料】

平成20年度 学校教育活動自己評価 集計結果 ・ ・ ・ ・ ・ 教職員対象

学校教育に関するアンケート 集計結果 ・ ・ ・ ・ 保護者対象

学校生活についてのアンケート 集計結果 ・ ・ ・ 児童対象

第55回小学校教育研究会 参会者アンケート 集計結果

平成20年度 学校教育に関するアンケートの集計結果と考察について（保護者配布文書）